

■景域に含まれる支庁及び市町村

渡島支庁 函館市・七飯町・大野町・上磯町・木古内町・知内町・福島町・松前町・楳法華村
 南茅部町・恵山町・戸井町・森町・砂原町・鹿部町・長万部町・八雲町
 檜山支庁 厚沢部町・上ノ国町・江差町・乙部町・熊石町・大成町・北檜山町・瀬棚町・今金町・奥尻町
 後志支庁 寿都町・黒松内町・島牧村

■景域を構成する景観ゾーン

- ①松前半島南部湾岸景観ゾーン
- ②函館平野都市景観ゾーン
- ③亀田半島湾岸景観ゾーン
- ④駒ヶ岳周辺自然景観ゾーン
- ⑤厚沢部川流域田園景観ゾーン
- ⑥渡島半島西部湾岸景観ゾーン
- ⑦奥尻島自然景観ゾーン
- ⑧後志利別川流域田園景観ゾーン
- ⑨内浦湾沿岸湾岸景観ゾーン
- ⑩黒松内低地田園景観ゾーン

■景域における現況

観点 要因・背景	自 然	田 園	ま ち	広域湾岸景観・広域沿道景観・広域流域景観 (自然・田園・まちの関係性)	北 国 ら し さ の 創 出 (その他・活動等)
場所的要因 位置 地形 植生	<ul style="list-style-type: none"> ○道内では最も南に位置し、比較的温暖な気候(年平均気温8度以上) ○暖流の影響を受けている ○津軽海峡を挟んで、本州の陸地が望まれる ○長万部と寿都を結ぶ黒松内低地帯以南は、道内他域と異なる本州的風景をもち、ヒバ、ヒノキ、スギなどの特有の人工林が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館平野には、水田が多く見られるが山間、平地、河川流域～河口平野等に小規模水田や畑地があり、丘陵地には牧場も見られる ○水田から畑作、施設園芸果樹への転換が進み、農村景観が変化しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ○中心都市函館市以外は、密居型農業集落・半農半漁型集落が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○山間、平地、河川流域～河口平野等に比較的小規模な集落が点在する ○噴火湾沿いの遠望のきく湾岸景観において、駒ヶ岳が広域的シンボルとなっている ○海岸沿いに集落が点在する 	
空間構成的要因 広がり 土地利用 まとまり	<ul style="list-style-type: none"> ○仁山高原から函館山方向へ広がる扇状の砂州地形の広がりは印象的である ○駒ヶ岳の南側の裾野には雄大なスケールの丘陵地を形成している ○黒松内低地帯の連続的平地は特徴的である 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館平野以外は全体的に規模が小さく、まとまりのある景観となっている ○厚沢部川河口部には、水田の広がりが見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館市郊外の住宅地、市街地の拡大により、七飯・大野・上磯へのスプロール化が進行している ○広域幹線、産業道路沿いの郊外型大型施設(商業・工業)が目立つ ○函館市は、海と函館山を背景として特徴のある広がりを見せる ○函館の坂道は、特有の視点場と軸景観をもつ ○函館平野に広がる函館広域都市圏が景観的一体感をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館都市圏の拡大の中で、住宅地、工業団地等が農地を侵触しつつあり、景観変化が進みつつある ○国道5号沿いの赤松並木が沿道軸景観を形成している 	
人文的社会的背景 産業経済 生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ○函館山、大沼、駒ヶ岳、恵山等は広域的なシンボルである 	<ul style="list-style-type: none"> ○温暖な気候と肥沃な土地を生かして、豊かで多様な農業が展開されている 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館市西部地区のエキゾチックな街並み、江差のいにしえ街道沿いの歴史的街並み等は、魅力的な観光資源となっている ○海岸沿いに漁業集落が点在 ○漁業をなりわいとする集落 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館湾岸の造船所ドック(函館)、セメント工場(上磯)、火力発電所(知内)等広域的に意識される産業景観をつくり出している ○函館フェリー港、函館空港はこの地域の玄関口となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統ある祭りの風景は印象が強い ○沿岸から前浜の漁業の風景は本州とは異なるイメージをもつ
時間的歴史的背景 歴史性 季節 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○命名者の名をとったガルトネルブナ林が知られている ○針広混交林の紅葉は、対比が鮮やかである 	<ul style="list-style-type: none"> ○大野地方は、道内で最も古くから稲作が行われた ○上磯地方は、男爵イモゆかりの地である ○稲作地帯の秋の収穫風景は、「里の雰囲気」をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的早い時代(明治以前)から開けた自然発生的市街地形成が多く見られる(場所請負型集落) ○江戸以前の和風(江差・上ノ国・松前)、明治以降の洋風・和洋折衷(函館)の歴史的建物、街並み景観 ○函館山～仁山高原からの夜景は地域のシンボリックな景観である 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館～松前の間の「松前街道」をテーマとした広域連携が始まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ○松前、上ノ国、江差等が連携した歴史を生かすまちづくりのネットワークが育ちつつある
典型的景観資源	<ul style="list-style-type: none"> ○大沼国定公園(駒ヶ岳・大沼・小沼・日暮山) ○松前矢越道立自然公園(矢越岬・白神岬・大島・小島) ○檜山道立自然公園(鳴島・奥尻島・夷王山・見市川) ○狩場茂津多道立自然公園(狩場山・泊川・茂津多岬・弁慶岬) ○恵山道立自然公園(恵山・日浦岬) ○横津岳 ○知内川 ○函館湾 ○大千軒岳 ○大野川 ○遊楽部岳 ○厚沢部川 ○函館山 ○後志利別川 ○遊楽部川 ○噴火湾 	<ul style="list-style-type: none"> ○八雲周辺の酪農地帯 ○大野平野の水田・畑作地帯(小規模ながら屋敷林もある) ○駒ヶ岳の裾野に広がる畑作地帯 ○後志利別川流域に広がる水田地帯 ○厚沢部川流域に広がる水田地帯 	<ul style="list-style-type: none"> ○函館・西部地区の歴史的な街並み ○松前・松前城と周辺の社寺仏閣 ○江差・いにしえ街道の歴史的街並み ○寿都・鱒御殿とまち中の土蔵 ○函館都市圏 ○日本海沿岸の漁村集落 	<ul style="list-style-type: none"> ○奥尻島を遠望できる視点場 ○国縫漁港(ワイングラス型の特徴的形態) ○国道5号の街道性(赤松街道) ○JR 函館本線の地域連携性 ○玄関口としての役割を果たす拠点 ・函館港 ・函館空港/奥尻空港 	<ul style="list-style-type: none"> ○南茅部・鹿部の昆布干し ○津軽海峡に浮かぶ漁り火

■景域の景観特性・課題・景観づくりの取り組み方向

観点 要因・背景	自 然	田 園	ま ち	広域湾岸景観・広域沿道景観・広域流域景観 (自然・田園・まちの関係性)	北 国 ら し さ の 創 出 (その他・活動等)
景 域 の 景 観 特 性	○道内では比較的温暖な気候であり、長万部と寿都を結ぶ黒松内低地帯以南では、本州に近い植生が見られる。函館山と駒ヶ岳(大沼)は、広域的シンボルとして共有されている	○函館平野においては、道内では最も古くから稲作が行われ、水田が多く見られるが、畑作、施設園芸への転換も進みつつあり、農村景観が変化している	○明治以前から開けた場所請負集落発展型の自然発生的市街地形成が特徴、江戸期以前の和風(江差、上ノ国、松前)明治以降の洋風、和洋折衷(函館)の歴史的建物・街並み景観が残されている	○北海道の中では、特異な本州の「街道」景観の形成が見られる	○昆布干しや漁火など地域特有の一次産業を反映した生活風景が見られる
景観づくり の 課 題	○自然海岸の維持、海岸眺望の保全 ○道南特有の山林景観を形成する自然林、人工林、里山等の保全・育成	○農地縁辺部の景観阻害への対応 ○水田農家周辺の屋敷林の保全・育成	○函館都市圏の住宅地、工業団地、沿道商業地等のスプロールによる景観阻害への対応 ○歴史的建物・街並み景観の保全・修景	○高齢化、過疎化に伴う景観への関心～まちづくり意欲の低下 ○貴重な赤松(並木)街道の保全・管理・修景	○地域産業の生産の場の環境整備
景観づくり の 取 り 組 み 方 向	○日本海、太平洋、内浦湾沿岸に見られる海成段丘や海食崖、砂浜などの自然海岸をまもる ○ヒノキ・アスナロ・スギなど道南特有の植生条件による自然景観を育み、保つ	○函館平野の水田地帯に見られる本州的な農家や屋敷林などの周辺環境をととのえる ○厚沢部川、後志利別川流域に広がる水田地帯で背景になっている里山を保ち、環境をととのえる	○函館都市圏において市街地拡大に伴うスプロールなどの景観阻害を抑制する土地利用計画をつくる	○地域共有のシンボルである駒ヶ岳・函館山等に配慮した眺望景観づくりをすすめる ○赤松街道、松前街道など共通のテーマをもって地域が連携できる広域沿道景観づくりをすすめる	○函館、松前、江差で見られる歴史的資源の活用による景観整備とその他の歴史的な資源の再評価と活用をはかる